

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel:0120-232-7111(通話料無料)
上場市場	大阪証券取引所JASDAQ市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.lachd.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
4. 2010年4月1日付のジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併により、当社普通株式は大阪証券取引所JASDAQ市場に上場されております。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手順ではございますが、右記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

ご回答いただいた方の中から抽選で
薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問合せ「e-株主リサーチ事務局」TEL：03-5777-3900(平日 10：00～17：30) MAIL：info@e-kabunushi.com

単元未満株式の買増・買取請求について

単元未満株式(当社の場合、100株に満たない株式)を所有される株主様には、単元未満株式の買増・買取の2つの制度がございます。株主様のご所有状況に合わせてご利用ください。

●買増制度

お手元の単元未満株式と合わせて1単元(100株)となるように、当社に対して単元未満株式の売り渡しを請求できる制度。

●買取制度

お手元の単元未満株式を、当社に対して時価でご売却いただける制度。

具体的なお手続きにつきましては、証券会社等に口座を開設されている株主様は、お取引の証券会社等にお問合せください。

また、特別口座に記録されている株主様は、株主名簿管理人連絡先へお問合せください。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

- アンケート実施期間は、本報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。



<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 3857

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入力して検索してください。



空メールにより URL 自動返信 kabu@wjim.jp へ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

ラックホールディングス 株式会社

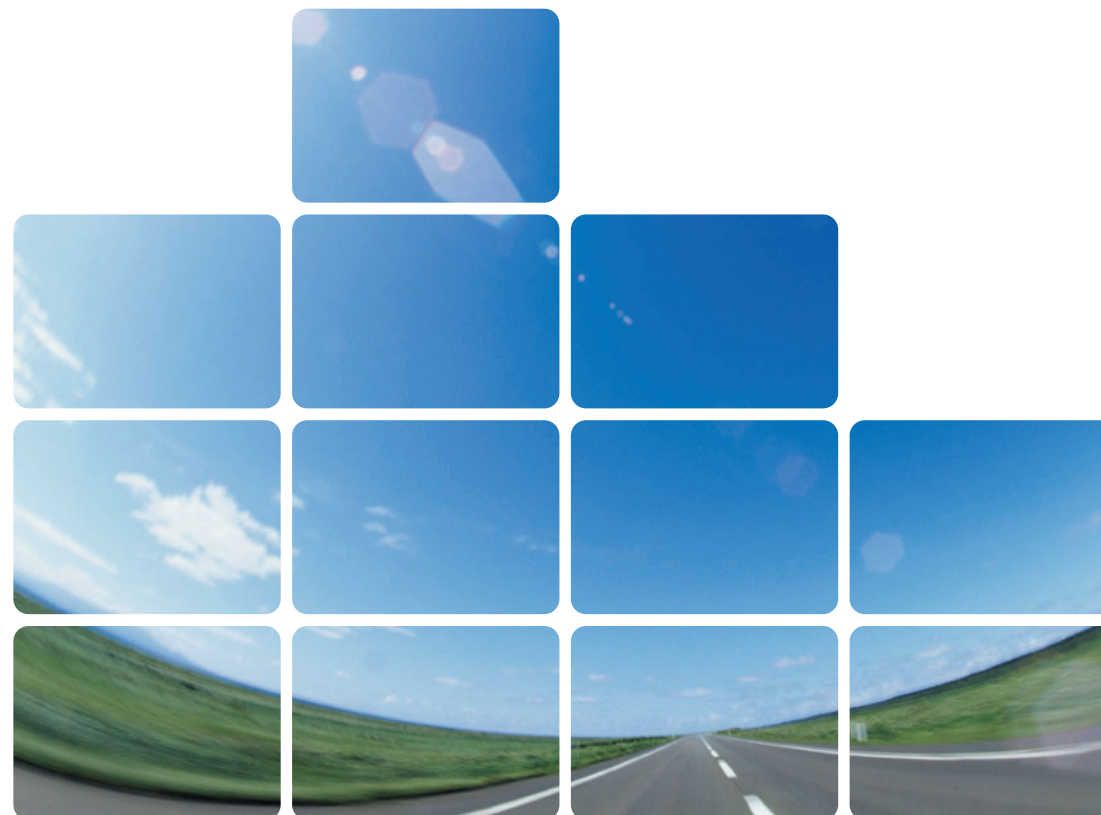
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-16-1 平河町森タワー

<http://www.lachd.co.jp/>

(お問合せ) 広報部 Tel: 03-6757-0107 E-mail: ir@lachd.co.jp



Business Report Vol.6



ラックホールディングス 株式会社

証券コード：3857



代表取締役 会長 兼 社長
三柴 元

効率的経営の推進で 業績の回復を目指します

株主ならびに投資家の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ラックホールディングス株式会社の第4期中間報告書をお送りするにあたり、
謹んでご挨拶申し上げます。

当上半期における当社グループの属する情報サービス業界は、景気の先行き
不透明感が増すなか、企業のIT投資への慎重姿勢が継続され依然として厳しい
状況で推移いたしました。

このような経営環境のなか、当社グループは、グループ各社の強みを持ち寄り、
重複するムダをなくしグループ総合力を高める施策に取り組み、厳しい経営環境下
においても安定した収益を上げられる体質の構築を目指しております。本年5月の
オフィス統合を契機にグループ全体のコスト低減の徹底や組織のスリム化と要員配置
の適正化により効率性・生産性を高めるなど、環境変化に適応した変革への取り組み
を加速させ業績回復に向けて邁進しております。また、国際事業室を設置し、中国
上海の拠点を拡充するなど競争力の維持・強化のため、グローバル化への対応にも
着々と布石を打っております。

下半期におきましても、厳しい経営環境が予想されますが、引き続きグループ一丸
となって上記変革に取り組み一層の収益力向上を図るとともに、本年10月より来期
以降の飛躍に向けた成長戦略の策定に着手し、お客様視点での付加価値の高い
ソリューションを提供する、社会インフラを支える企業を目指してまいります。

皆様におかれましては、なにとぞ一層のご理解、ご支援を賜りますようよろしく
お願い申し上げます。

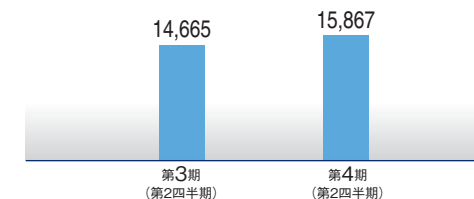
第4期 第2四半期決算ハイライト Financial Highlights

決算のポイント

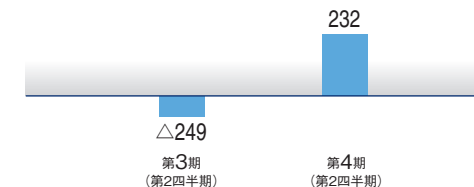
企業のIT投資抑制が継続される厳しい事業環境
のなか、営業力を強化し3事業とも増収を確保。

オフィス統合を契機にグループ全体でコスト低
減、生産性の向上に取り組み、収益改善を推進。

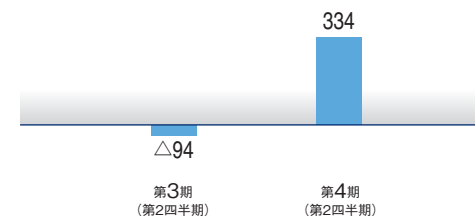
売上高
158億67百万円(前年同期比8.2%増)



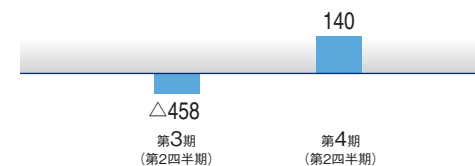
経常利益
2億32百万円
(前年同期は2億49百万円の経常損失)



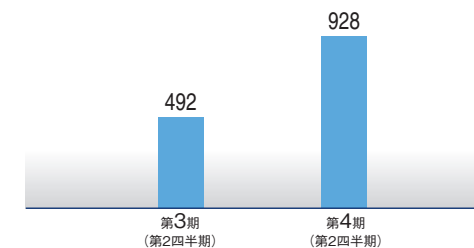
営業利益
3億34百万円
(前年同期は94百万円の営業損失)



四半期純利益
1億40百万円
(前年同期は4億58百万円の四半期純損失)

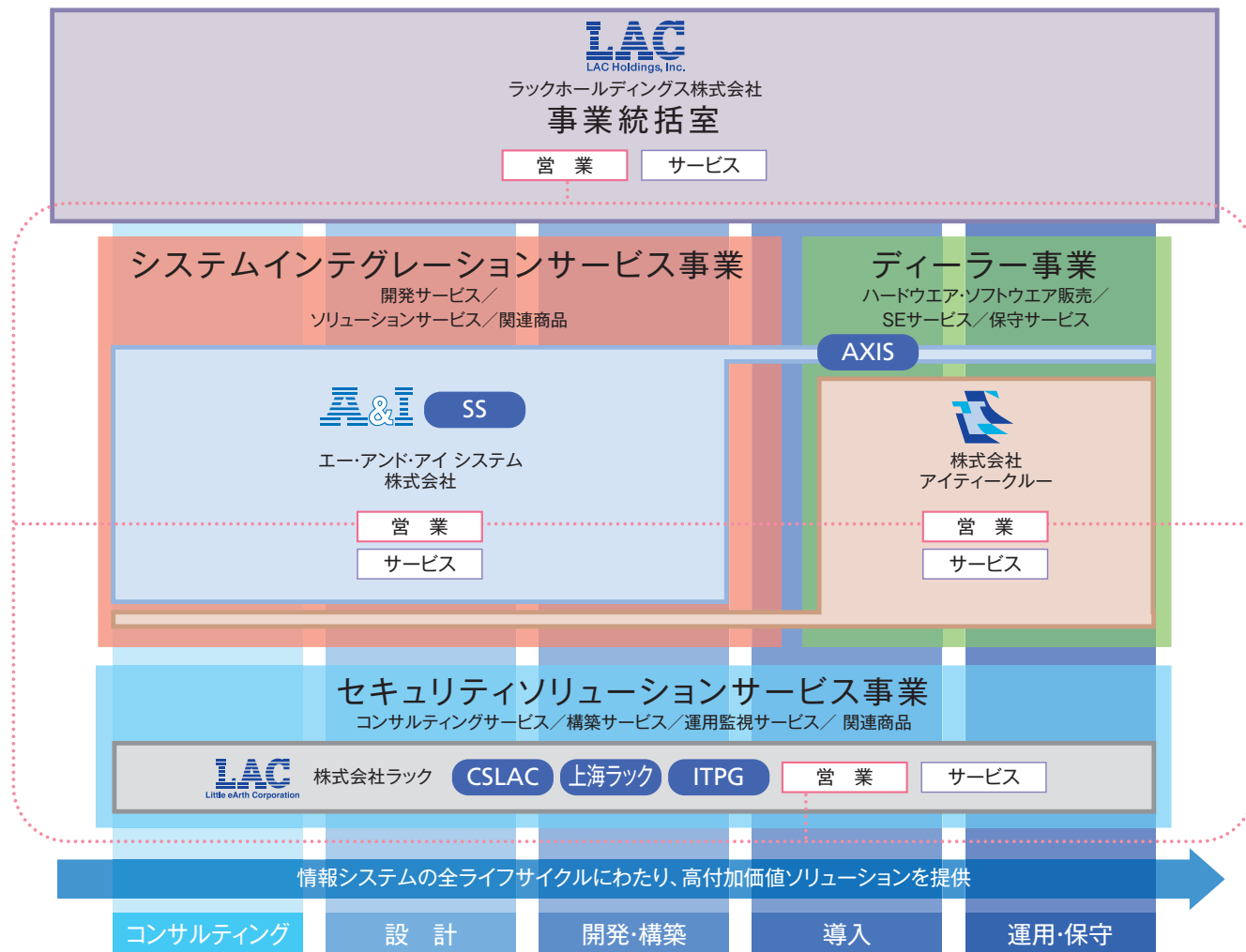


EBITDA
9億28百万円(前年同期比88.5%増)



事業ポートフォリオ

オフィス統合により3事業の連携が一層強化され、グループ総合力を活かしたより広範囲なビジネス提案が可能になりました。



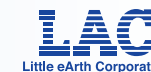
SS：株式会社ソフトウェアサービス、AXIS：株式会社アクシス、CSLAC：Cyber Security LAC Co.,Ltd.、上海ラック：LAC CHINA CORPORATION CO.,LTD.、ITPG：株式会社ITプロフェッショナル・グループ

グループのスペシャリティ

vol.2 SSS事業(セキュリティソリューションサービス事業)
SSS事業の中核企業である「株式会社ラック」について、ご紹介します。

株式会社ラック

【社員数】 個別：352名 連結：384名（2010年4月1日現在） 【設立】 1986年9月3日 【代表取締役社長】 齋藤 理



『世界トップレベルの情報セキュリティ技術で、高度情報社会を支える企業』

Top Message



1995年、当社はインターネットやその技術による高度情報社会の到来を確認し、国内企業の先駆けとして情報セキュリティサービスの提供を開始しました。15年前に予測した通りインターネットは、人々の生活や企業活動を支える「社会インフラ」へと発展しました。一方、案じたように、情報漏えい、コンピュータウイルスやサイバー攻撃などの脅威も後を絶ちません。この高度情報社会では世界、国、企業・団体、個人などのレベルごとにセキュリティを考慮しなければなりません。当社は、世界標準や国策に貢献しつつ、組織活動をセキュリティ面で支援し、日本の発展と成長に寄与します。日本が世界から得ている高治安国家・高モラル社会としての信頼を、これからの高度情報社会でもリードできるように、時代にあった最適な情報セキュリティサービスを提供してまいります。

サービス紹介

■セキュリティ事業の中核JSOC (Japan Security Operation Center)
24時間365日のセキュリティ監視サービスJSOC、あらゆる弱みを発見し指南する診断サービスなど、情報セキュリティ分野における一貫したサービスを取り揃え、お客様のICTの高度な活用を支援します。

■サイバー救急センター【緊急対応/フォレンジック調査 サイバー119】
情報漏えいなどの緊急事態に際し、これまでの多数の事件・事故への対応実績とノウハウを活かして「事業継続」と「被害者保護」の

観点で、迅速にお客様の事業復旧までご支援する緊急対応サービスを提供します。

■サイバーリスク総合研究所

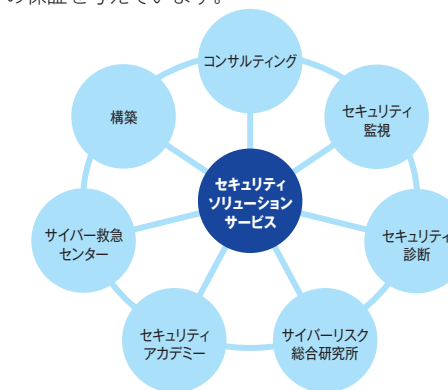
民間企業としては稀有なセキュリティ専門の研究組織で、時代の変化を見据え世界レベルで脅威情報を収集し分析を行い、提供するサービスに活かしています。この組織の存在が、当社のサービスに「最高」の保証を与えています。

最近のセキュリティ動向と当社の取り組み

■急激なスマートフォンの普及と新たな脅威への対応
スマートフォンの普及は、私たちの生活や組織活動のスタイルを変革させると言われています。当社はこの分野でもセキュリティをリードし、その安全な利用を支援します。

■クラウドネットワークへの対応と新サービスの提供

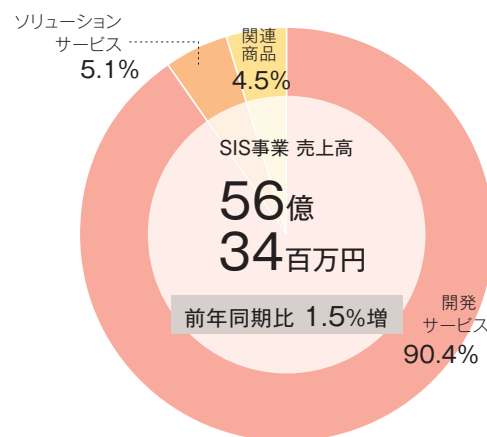
オフィス環境のクラウドサービスを安全なセキュリティ運用のみで提供する、当社ならではのオフィスクラウドサービスの提供を開始しました。これにより中小企業にまで事業を拡張してまいります。



SIS事業(システムインテグレーションサービス事業)

企業のIT投資が引き続き抑制されるなか、営業機能を強化し既存顧客からの取引継続・拡大と新規顧客の開拓による受注獲得に注力するとともに生産性の向上と品質管理体制の拡充による収益確保に努め、売上高は56億34百万円(前年同期比1.5%増)、営業利益は8億57百万円(同60.8%増)となりました。

売上高(サービス別)



開発サービス

売上高 **50億96百万円** 前年同期比 1.5%減

一部製造業向けの案件などで回復傾向があるものの、証券業、人材派遣業向けなどの開発案件の受注が減少したことに加え、当社子会社「株式会社保険システム研究所」の譲渡の影響などにより、売上高は50億96百万円(同1.5%減)となりました。

ソリューションサービス

売上高 **2億86百万円** 前年同期比 97.5%増

前期に受注した自治体向け新規案件が寄与し、売上高は2億86百万円(同97.5%増)となりました。

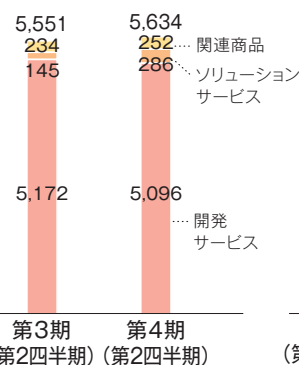
関連商品

売上高 **2億52百万円** 前年同期比 7.8%増

請負案件のサーバー機器、ネットワーク機器の販売や保守契約更新などにより、売上高は2億52百万円(同7.8%増)となりました。

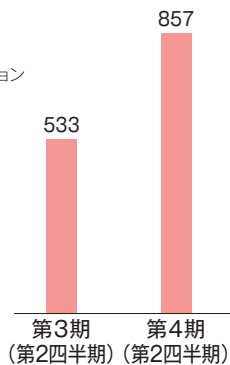
売上高

(単位:百万円)



営業利益

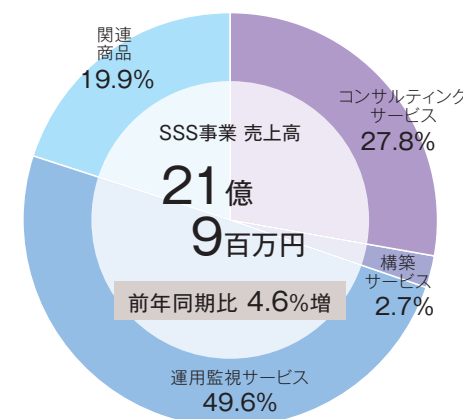
(単位:百万円)



SSS事業(セキュリティソリューションサービス事業)

今後、普及が予想されるクラウドコンピューティングにおいて、利便性とセキュリティの向上を図りながらオフィスのIT環境のアウトソーシングを実現する新規ソリューションの開発に向けた準備や上海ラックの拡充により日本企業向けサービスの展開を強化するなど、新たなサービスの創出と市場の開拓に努めてまいりました。企業の情報セキュリティの投資抑制に一部軟化が見られるなか、売上高は21億9百万円(前年同期比4.6%増)、営業利益は1億49百万円(同1.5%増)となりました。

売上高(サービス別)



コンサルティングサービス

売上高 **5億85百万円** 前年同期比 1.2%減

診断系新規ソリューションの開発支援などの受注があったものの、緊急対応サービスの案件が小型化したことや官公庁向けコンサルティング案件の受注が減少し、売上高は5億85百万円(同1.2%減)となりました。

構築サービス

売上高 **57百万円** 前年同期比 10.0%減

教育機関向けネットワーク構築案件の受注や監視用機器の導入サービスの受注が堅調だったものの、代理店経由の受注が減少し、売上高は57百万円(同10.0%減)となりました。

運用監視サービス

売上高 **10億47百万円** 前年同期比 7.9%増

診断サービスの価格競争が一層激化するなか、過去に取引実績のあるお客様からのリピート受注が好調だったこと、監視サービスにおいて既存のお客様からの契約更新の受注が順調に推移したことにより、売上高は10億47百万円(同7.9%増)となりました。

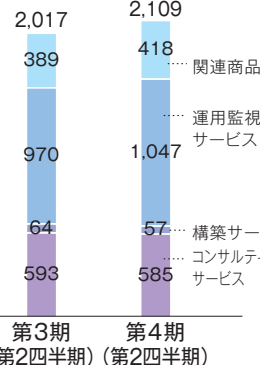
関連商品

売上高 **4億18百万円** 前年同期比 7.4%増

監視サービスに付随する商品の販売や保守更新の受注が増加し、売上高は4億18百万円(同7.4%増)となりました。

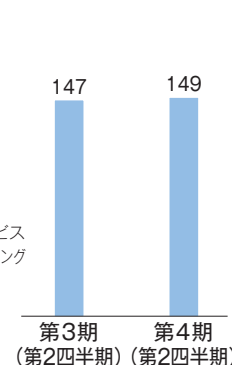
売上高

(単位:百万円)



営業利益

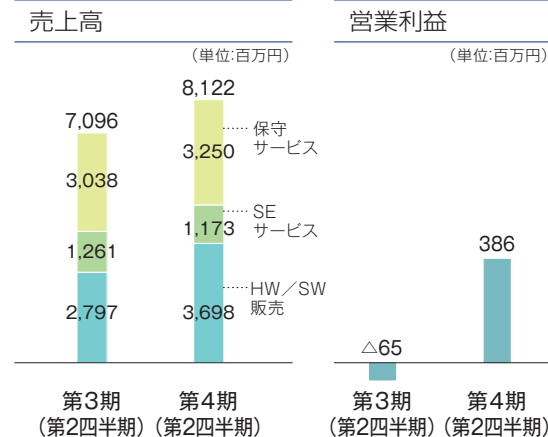
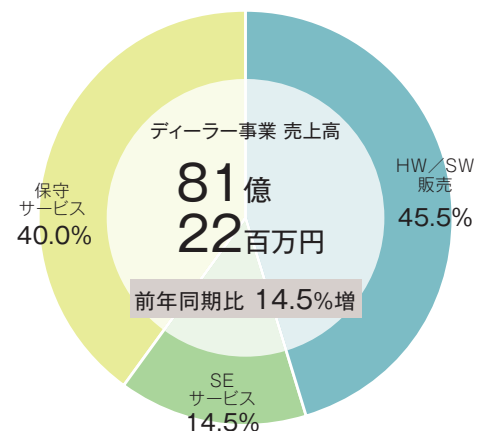
(単位:百万円)



ディーラー事業

企業のIT投資抑制が継続されるなか、コスト構造改革を推進するとともにお客様のニーズに応える新商品・サービスの拡充に取り組み、また主要なお客様である金融機関のほかサービス業など金融業界以外の市場に営業展開するなど受注の獲得により、売上高は81億22百万円（前年同期比14.5%増）、営業利益は3億86百万円（前年同期は営業損失65百万円）となりました。

売上高(サービス別)



HW/SW販売

売上高 **36億98百万円** 前年同期比 32.2%増

主要なお客様である金融機関のIT投資は回復基調になく、受注はほぼ横ばいで推移したものの、サービス業など非金融向け案件の受注が拡大し、売上高は36億98百万円(同32.2%増)となりました。

SEサービス

売上高 **11億73百万円** 前年同期比 6.9%減

金融機関向けHW/SWの導入サービスの受注が伸びなかったことに加え、基盤系開発案件の受注が減少し、売上高は11億73百万円(同6.9%減)となりました。

保守サービス

売上高 **32億50百万円** 前年同期比 7.0%増

保守更新の受注が増加したことに加え、ネットワーク構築などサービス提供領域が拡大し、売上高は32億50百万円(同7.0%増)となりました。

四半期連結貸借対照表(要旨)

単位:百万円

科 目	当第2四半期末 2010年9月30日現在	前期末 2010年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	10,189	11,086
固定資産	10,975	10,962
有形固定資産	1,356	950
無形固定資産	5,040	4,914
投資その他の資産	4,579	5,097
資産合計	21,164	22,049
【負債の部】		
流動負債	8,824	9,142
固定負債	5,516	6,156
負債合計	14,341	15,299
【純資産の部】		
株主資本	6,843	6,921
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	5,675	5,675
利益剰余金	466	544
自己株式	△ 298	△ 298
評価・換算差額等	△ 27	△ 180
少数株主持分	8	9
純資産合計	6,823	6,749
負債純資産合計	21,164	22,049

四半期連結貸借対照表のポイント

資 産

前払費用等の増加があった一方で、売掛金の回収、敷金の回収などにより、211億64百万円(前連結会計年度末比8億84百万円減)となりました。

負 債

前受収益等の増加があった一方で、買掛金の支払い、長期借入金の返済などにより、143億41百万円(同9億58百万円減)となりました。

純資産

配当金の支払いによる利益剰余金の減少があった一方で、その他有価証券評価差額金の増加などにより、68億23百万円(同73百万円増)となりました。

主要経営指標

	当第2四半期累計期間	前期
自己資本比率(%)	32.2	30.6
時価ベースの自己資本比率(%)	23.6	22.9
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	349.5	347.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	13.0	13.2
EBITDA(百万円)	928	1,852

※自己資本比率:自己資本/総資産
時価ベースの自己資本比率:株式時価総額/総資産
キャッシュ・フロー対有利子負債比率:有利子負債/営業キャッシュ・フロー
インタレスト・カバレッジ・レシオ:営業キャッシュ・フロー/利払い
EBITDA:営業利益+減価償却費+のれん償却額

四半期連結損益計算書(要旨)

科 目	単位:百万円	
	当第2四半期累計期間 自2010年4月1日 至2010年9月30日	前第2四半期累計期間 自2009年4月1日 至2009年9月30日
売上高	15,867	14,665
売上原価	12,579	11,736
売上総利益	3,287	2,929
販売費及び一般管理費	2,953	3,024
営業利益又は営業損失(△)	334	△ 94
営業外収益	24	34
営業外費用	127	189
経常利益又は経常損失(△)	232	△ 249
特別利益	157	0
特別損失	122	94
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	267	△ 343
法人税、住民税及び事業税	167	59
法人税等調整額	△ 41	58
少数株主損益調整前四半期純利益	141	—
少数株主利益又は少数株主損失(△)	0	△ 2
四半期純利益又は四半期純損失(△)	140	△ 458

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科 目	単位:百万円	
	当第2四半期累計期間 自2010年4月1日 至2010年9月30日	前第2四半期累計期間 自2009年4月1日 至2009年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	1,009	1,765
投資活動による キャッシュ・フロー	242	△ 718
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,839	△ 999
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 6	0
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 594	47
現金及び現金同等物の 期首残高	2,375	2,462
現金及び現金同等物の 四半期末残高	1,781	2,510

四半期連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前四半期純利益の計上に加え、減価償却費およびのれん償却額の計上、売上債権の回収などにより、10億9百万円の資金流入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー
ソフトウェアの取得等による支出があった一方で、敷金の回収による収入などにより、2億42百万円の資金流入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー
長期借入金および短期借入金の返済による支出、配当金の支払いなどにより、18億39百万円の資金流出となりました。

会社概要

商 号	ラックホールディングス株式会社
英 文 名	LAC Holdings, Inc.
所 在 地	〒102-0093 東京都千代田区平河町2-16-1 平河町森タワー 電話 (03) 6757-0100 (代表)
設 立	2007年10月1日
資 本 金	10億円
従 業 員 数	連結:1,541名 個別:117名

役員

代表取締役 会長 兼 社長	三柴 元
取締役	牧野 敏夫 [社長室長、経営管理室 管掌]
取締役	中川 孟 [業務変革室、財務・経理本部、総務・人事本部 管掌]
常勤監査役	畑 康徳
常勤監査役	堀内 誠夫
社外監査役	酒井 富雄
社外監査役	網野 猛美
執行役員	齋藤 理 [LAC代表取締役社長]
執行役員	米田 光伸 [ITC代表取締役社長]
執行役員	高梨 輝彦 [A&I代表取締役社長]
執行役員	怒和 秀昭 [事業統括室長]
執行役員	伊藤 信博 [財務・経理本部長]
執行役員	三柴 照和 [国際事業室長]
執行役員	岩崎 勝 [経営管理室長]
執行役員	山城 隆志 [業務変革室長]
執行役員	鎌田 寿雄 [総務・人事本部長]

株式の状況

発行可能株式総数	普通株式	100,000,000株
	A種優先株式	10株
発行済株式の総数	普通株式	26,683,120株
	A種優先株式	10株
株 主 数	普通株式	6,451名
	A種優先株式	1名

大 株 主 (普通株式)		
氏名または名称	所有株式数(株)	所有比率(%)
有限会社コスモス	8,000,000	29.98
KDDI株式会社	1,414,200	5.29
三柴 元	1,147,200	4.29
ラックホールディングス株式会社	1,097,090	4.11
株式会社ハウスホールディングス	1,012,300	3.79
ラックホールディングス従業員持株会	930,410	3.48
三菱商事株式会社	870,000	3.26
中島 尚彦	548,600	2.05
株式会社ユーシン	398,400	1.49
株式会社クレスコ	355,000	1.33

※有限会社コスモスは、当社代表取締役社長三柴 元およびその親族が株式を保有する資産管理会社であります。

所有者別株式分布状況(普通株式)

